

学力向上先進地域視察研修 in 岐阜県岐阜市

グループ別テーマ「学校全体の組織力、家庭・地域との連携」

取組の実際

○ 学校の組織づくり

小学校では、生徒指導主事が問題行動、特別支援教育コーディネーターが個別の教育支援教育、相談主任が教育相談や不登校児童対応というように生徒指導の窓口を一本化し、可能な限り、担任以外が対応している。これによって、担任は日常の授業に専念できるようにしている。

また、学校経営方針の具現化のために、一年を通して段階的(5期「たねま期」「みずま期」「いきい期」「きらめ期」「つばや期」)に児童を育成するという方針を打ち出すとともに、各主任・主事が教育活動における指導の重点と方策を講じ、共有化を徹底している。

○ 小中一貫教育推進

中1ギャップを解消し、9年間を見通した系統的な教育を目指し、中学校区単位で次のような取組が行われている。

- ・小中合同の学校運営協議会
- ・教育目標の統一
- ・学び方や学びの系統表
- ・小中兼務の英語教諭の加配
- ・小中リーダー会
- ・合同あいさつ運動 等

○ コミュニティ・スクールの運営

岐阜市では、市立の幼・小・中・高・特別支援学校のすべての学校において、学校運営協議会を中心としたコミュニティスクールが導入されている。この仕組みを利用して、学校の抱える課題を保護者や地域の方と共有したり、保護者や地域の意見を取り入れたりすることで、「あいさつ運動」「よいことみつけの運動」など、各学校の課題や特色に応じた活動を協働で展開したり、長期休業日や放課後、休日を利用した児童生徒の地域での居場所づくりを行ったりしている。

今後の取組

【教務担当主幹教諭として】

◇学校の組織づくりのため

学校目標を段階的・具体的に実行するために、校務運営の核となる部会の主任に働きかけ、各部が具体的な方策を立てる。

学校全体で子供を見る！

◇小中一貫教育推進のため

9年間をめざす児童生徒の姿(指導目標)を共有化するために、校内研究主任と連携しながら、小中間での授業交流を計画・実行する。

小中学校で子供を見る！

◇コミュニティスクール運営のため

地域と連携して児童生徒を育てていくために、学校と地域とが考えた取組を実施する際に具体的な活動内容を、地域や学校の職員、児童・生徒に示していく。

地域とともに子供を見る！

まとめ

- 組織的な学校運営の下、9年間を見通した指導計画の作成、学校・家庭・地域が一体となった児童生徒の育成が大切である。
- 自らの学びを自己の課題として明確に捉えさせ、その課題に対して自分の考えや友達の考えを共有し、お互いの考えを評価していく授業づくりが大切である。

共通テーマ「授業づくりについて」

取組の実際

○ ユニバーサルデザインの授業づくり～問題を課題化へ～

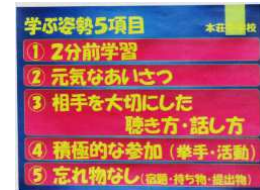
教師が提示した問題から児童生徒の課題となるように、児童生徒と対話をくり返しながら、「考えるべきこと」を明確に焦点化させた授業づくりが行われている。児童生徒から湧き上がった問いは、追究意欲を喚起し、効果的な課題解決学習につながっており、その学習過程は、資料1に示す通り。



【資料1 学習過程】

○ 3つの見届けと授業評価を取り入れた授業づくり

児童生徒による「評価」の充実が図られており、特に、小学校では、①「児童の実態」、②「児童の学習状況」、③「児童の定着状況」の3つの視点で見届けを行っている。その授業評価が、中学校での「毎時間の授業評価」へとつながっている。具体的には、満点を5点とした授業者による評価を毎時間行い、1週間サイクルで、授業評価「オール5」を目指す取組を行っている。(資料2)

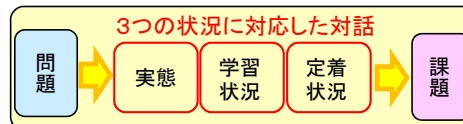


【資料2 授業評価の視点】

今後の取組

【校内研修担当者として】

～対話をもとにした問題を課題化へ～



「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、児童生徒の「実態」・「学習状況」・「定着状況」に対応した対話を通して、問題の課題化を促進し、自力解決や他者との交流等の様子を評価していくというサイクルを授業改善の中核となる方途の1つとして構築し、日常化を図っていく。

【コア・ティーチャーとして】

くめあて	月 日(月)	月 日(火)	月 日(水)	月 日(木)	月 日(金)
1	算数 4時	理科 5時	国語 5時	体育 5時	音楽
2	体育 5時	理科 5時	国語 5時	社会 5時	音楽
3	社会 5時	社会 5時	理科 5時	社会 5時	音楽
4	社会 5時	理科 5時	理科 5時	国語 5時	音楽
5	国語 5時	理科 5時	理科 5時	国語 5時	音楽
6					
平均	4.9	5	5	5	5

教科の単元末だけの評価ではなく、1単位時間ごとに、見方・考え方を働かせた姿、授業に対する姿勢、表現したことやものなどのパフォーマンス評価の視点を明らかにし、「毎時間の授業評価」の在り方を児童生徒に伝えていく。